

「こんにちは！知事です（松山地方局）」

日 時 平成17年8月5日（金）14:00～16:00

場 所 愛媛県林業技術センター（久万高原町）

今回は、久万高原町の方々からご意見をお伺いしました。

知事との意見交換にご参加いただいた方々

	氏 名		氏 名
1	上野 盛勝	10	高山 哲也
2	大野 正志	11	竹森 まりえ
3	大野 睦郎	12	舘野 久子
4	海田 順子	13	田村 昭子
5	梶川 絹子	14	釣井 博美
6	菅 弘一	15	村上 千代子
7	窪和久 正三	16	山之内 章
8	黒田 浩美	17	山本 政吾
9	重岡 チツ子	18	山本 敏江

傍聴された方 31名

意見交換の概要

耕作できなくなった農地の売買条件の緩和

ボランティア活動をしていると、独居で頼る人がいないので畑をどうしたらいいのかという相談をよく受ける。田とか山は売買しにくいし、畑を売ろうとしても農地法で5反以上でないと売れないという話を聞いた。特例で認めてもらえないか。そういった荒れた土地、使わなくなった畑、誰も守る人がいなくなった墓をみんなで守っていけるシステムを作っていけたらいいと思う。

(知事)

確かにそのような規制がある。国も構造改革特区とか地域再生という形でいろんな規制を外している。県も今年から「えひめ夢提案制度」で規制緩和してほしい提案を募集しており、県ができることは可能な限り規制緩和する。国の規制がある場合には、国に対して構造改革特区として規制緩和を求めることにしている。地域の実情により、制限を緩くすることは可能になりつつあるので、チャレンジしてみる価値はある。可能性はゼロでないと思うし、そういう道が拓ける時代になってきている。久万高原町から可能になる方向での夢提案を出してもらおうよう地方局長に措置をさせる。

[対応]

久万高原町から、「えひめ夢提案制度」に応募があり、現在、対応を検討している。

上浮穴高校の存続

あと5年間ぐらいで上浮穴高校が廃校になるかもしれないとの話を聞いた。多くの人がここで勉強し、久万のために育ってきている。恩返しの意味から何か出来たらいいと考えている。いい方法があれば指導してほしい。

(知事)

県立高校存続の件は、実は上島町でも弓削高校の存続の要請があった。県の方針は、県立高校で募集定員2学級確保できない場合には分校にする、分校の定員も確保できなければ廃止するという基本線がある。生徒数が少なくなっても県立高校を維持していくためには、必要な教科の先生を揃えなければならない。県民の税金をそういったことにつき込むことは許されるのか。財政逼迫だから整理統合したほうが効率的な税金の使い方になると思う。

弓削高校の場合は、いま高校がなくなると島の人達が大変困る。だから、基本線はそうだけでも弓削高校存続のためにがんばりたいという答弁をした。上浮穴高校がなくなったら中山とか砥部に行けないのかと考えたとき、上浮穴高校があったほうがいいに決まっているが、大切なことは入学定員を確保出来ることである。久万高原町から松山の高校へ行って、地元の高校へ入らないで、地元の高校は残してくれと言われてもどうかと思う。松山の高校へ行くよりも、上浮穴高校の方がいい性格のいい子どもに育つ、役に立つ子どもになると地域のみんなが考えていただくことが基本と思う。

植樹活動の推進

行政がクヌギとかを植樹してくれるということで大変喜んでいる。どんぐりを子どもが拾いに来る。許される範囲で植樹したい。

(知事)

地域によって植生があるが、多分クヌギは困ることはない。森林(もり)基金が一生懸命植樹活動をしているので可能だと思う。植樹についての種類という指定は全くない。皆さんが植えたいものを植えていただく。この地域には向かない植生があるが、多くは植林したいという気持ちに沿った苗木が植えられていると思う。

木材需要促進策の実施

林業に理解いただき、間伐補助とか本当にありがたいと思う。

問題は材木の価格が非常に安いことである。少しでも木材の需要が増えるような施策をお願いします。

(知事)

木材価格の低迷はなかなか難しい問題であるが、材木を使ってもらわないといかんということで、県は、県や市町の2階建て以下の公共建築は全部木造にするという方針で進めている。それから一般家庭が県産材を使って住宅を建てれば、住宅ローンの金利の利子を一部県が負担している。

価格は市場が決める話で、高く買えと言っても使ってくれない。外材の輸入を止めるしかないが、それは世界自由貿易というWTO協定がある以上はできないから、価格競争をしなければならないという大変つらい立場にある。

県としては間伐を是非進めたい。県ができることは、間伐材の処理に困るから、間伐材を製紙のウッドパルプの原料に使ってほしいとか、四

国電力の西条火力発電所で石炭を燃やす際に、木屑をあるいは樹脂を使ってほしいとか、あらゆることで木材を使用してもらおうということです。

山から運ぶ今の流通経費がべらぼうに高いので、その経費をなんとかできないか、ありとあらゆる知恵を総動員している。ただ県の力を持ってでも価格は上げられない。

新任教員への社会人教育研修の実施

義務教育費国庫負担金の削減に対し、先頭に立って反対していただき感謝する。

教員の不祥事の話聞く度に、教員は学校を卒業して直ぐに周りから先生と呼ばれ、地域で学ぶ機会がないことによると思う。教員採用後1年か半年は社会人としての研修を行う制度ができないのか。

(知事)

義務教育費国庫負担金は義務教育の根幹に関わることである。いかなる僻地・離島であっても、都市部と同じように教育を受ける権利があり、それを担保するのがこの義務教育費国庫負担金である。

新任教員への研修は、文部省の担当局長時代に、新任教員に1年間初任者研修を義務付け、専任指導教員をつける制度を作った。財政が厳しいが、研修の中身の充実が必要である。趣旨を活かして社会人としての常識的な感覚を身につける研修を充実するように、教育委員会に申し伝える。

農地の住宅転用促進ための規制緩和

どんどん若い者がいなくなり、小学校の生徒数も30人切っている。農地の転用ができないので住宅が建たない。学校の近くだけでもいいから、農地法、農業振興地域を緩和してほしい。

(知事)

これはどこでもよく聞く話ですが、農業振興地域の宅地への転換を防ごうという考え方の基本は、日本の国土保全の点と食料安全保障の点がある。今世界の人口は60億人ですが、あと10数年で80億人になる。そうなると、今のような食料を確保できるのか。日本の食料自給率は40%で、外国からの輸入に頼っているが、将来を考えたとき、日本として必要最小限の農地は守るという使命がある。地域の実情によって違うが、ここは久万地方の農業にとって必要な地域だからだめだとか、ここは宅地転換しても大きく影響はないだろうとか、町の姿勢と農業委員会委員の判断による。一般論で言えば、今のような答えにならざるを得ない。

林道・作業道の維持管理への森林環境税の活用

林道・作業道の新設について補助をもらっているが、その維持管理は地元には任されている。災害予防のための路側の草刈、側溝の整備など林道・作業道の維持管理は森林整備の一環であることから、経費の一部を森林環境税で負担してほしい。

(知事)

設置者が維持管理経費を負担するのが建前である。林道・作業道の整備も森林を守るために必要な経費であるとの理屈が付けば、森林環境税は全く不可能ではない。原理原則からは厳しいが、「県森林環境保全基金運営委員会」のテーマの一つに話題としてあげる。

犯罪加害者への支援

愛と心のネットワークの中に被害を受けた方への支援はあるが、罪を償った加害者に対する支援についてどのように考えているか。

(知事)

民間の更生保護関係団体が更生しようとする人に暖かい手を差し伸べて努力をしていることは事実であるが、実効性がどこまで挙がっているかは難しい。趣旨を理解してもっと力強い支援ができる方向に向かえばいいと思う。

水資源活用のための4県協力

四国4県が協力して水資源の活用に努力してほしい。

(知事)

水資源の問題は、昔から一番難しい問題である。肱川の水を松山に持っていきこうとすると肱川流域の人が反対するように、県内ですら助け合いができていない。松山の水問題は面河ダムの水があれば解決できるが、久万地方に降った雨は仁淀川に流れて高知の人に権利があるので、高知県と契約して面河ダムを造った。10年に一度契約を更新しているが、高知県からは余った水は使わないようにと言われている。四国州になれば、同じ地域だから水は自由に分配できるようになるべきであると思う。融通が利かないのが水問題である。農業分野、工業分野、水道分野の区分けも弾力的にしなければならない。地域の垣根も取り払えばいい。理解を求めるには様々な難しい問題がある。

高齢者の足の確保

老人のほとんどはこの地域で助け合いながら生活していくことを希望しているが、全員が65歳以上という集落もかなり在る。高齢者が可能な限り、家庭や地域で生活していくには健康が第一であり、老人の足を確保し、薬が飲める状況にしていくことが必要である。

(知事)

採算の取れないバス路線は生活路線として、国・県の補助がある。集落ごとのきめの細かい足の確保になると多分バス路線は進出しないと思う。それが地域の老人の命綱であるならば、町財政を圧迫するが、優先して多用途に使えるマイクロバスの確保が必要になる。県が音頭を取るより町が取り組むことであると思う。県は国が補助を打ち切った僻地バス路線を補助している。

農業後継者育成のための異業種交流

農林業では、後継者の育成が非常に大きな課題になっている。これからもずっと後継者が農業をしていこうとする意欲が必要だと思う。農業者同士の研修はよくしているし、指導も受けているが、商工業とか、観光とか、消費者とか異業種の人と共に研究する機会があまりない。地域の活性化、農林業の活性化にもつながる一つのきっかけとなり、今まででは思いつかなかった意見を聞くことも出来ると思う。一回だけの実施でなく、年間ずっと続いて研究できるグループがあると素晴らしいし、地域の活性化にもつながっていくのではないかと考えている。

(知事)

後継者の問題、いいお話を伺った。それぞれの分野でいろんな施策やっているが、農業後継者は農業後継者だけで、商業、工業その他の分野との交流がないというのはそのとおりだと思う。ちょっと工夫が何か出来ないか、早速貴重な提案として活かしていきたいと思う。

[対応]

県では、県段階、地域段階での青年農業者組織の研修会において、異業種のリーダーを講師やパネラーとして招き、会員の資質向上やリーダーの養成を図っている。

今年度からは、地域段階での青年農業者組織活動において、地域や農業の抱えている問題点を解決するためのプロジェクト活動に取り組んでおり、今後は、その活動において、異業種のノウハウも活用できるようにしていきたい。

廃油石鹼改良の技術指導

水質保全のために廃油石鹼を使っている。汚れ落ちがよく、手も荒れない。広範囲で使えるが、若い人が嫌がっているのは油の臭いが残ることである。この点について、県で技術指導ができないか。

(知事)

工業技術センターが開発した「えひめ AI-1」が工場での水質保全に効果があるが、家庭では難しい。下水道、合併浄化槽の整備を徹底すべきである。水質保全に国民的な関心が向けばいいと思う。

[対応]

工業技術センターでは、一般県民の方や企業からのいろいろな技術的問題の相談・問い合わせに随時応じている。廃油石鹼についても技術的な指導や助言は可能であるので、気軽に利用いただきたい。

なお、工業技術センターでは、食品工場等の悪臭や汚泥の削減など、水質浄化等に効果のある環境浄化微生物「えひめ AI-1」を開発するとともに、製造方法を簡略化した「えひめ AI-2」を一般家庭での環境浄化資材として普及を図っている。

詳しい製造方法や利用方法については、当センターのホームページで紹介しているので、参考にしてください。

子育てのための医療環境の充実

町立病院に産・婦人科がないので、松山に出て行かなければならない。子供は地域の宝であり、少子高齢化の中で、今後の久万高原町を考えたとき、医療面での措置が必要ある。何かいい考えはないか。

(知事)

小児科は儲からない分野であり、全県的に小児科医の確保に困っている。大病院が小児科を抱えているが赤字の分野になっている。意見を十分受けとめ、県内の小児科医療のレベルアップに努力していく。

婦人会活動への支援

婦人会は予算が少ない中で頑張っており、学校での子供たちとの交流は子供たちの教育にとって大切なことであると思う。今後も補助をお願いしたい。

(知事)

県財政が厳しく、いろいろなところにしわ寄せが行っていると思う。予算を一律削減するのではなく、重要がどうかを判断してアクセントをつ

ける必要がある。婦人会活動に対する要望があったことは長く記録に留めておきたいと思う。

情報格差是正のためのADSLの久万高原町への整備

インターネットのインフラ回線は、久万高原町の中心部ではADSLが設置されているが、私の住んでいるところはISDNで、インターネットで仕事をするには速度が遅いと感じる。インフラを設備する企業にとっては、契約数がカバーできないと採算が取れないだろうから3・4年待っているがADSLが来ない。そういった通信が困難な地域に対して県が助成する事業に久万高原町が外れたようなので、その事業を継続する場合には、是非お願いしたい。柳谷・面河地域は非常に自然が多いので、この自然資源をPRする情報発信の道具として是非ともほしいと思う。

(知事)

高度情報化時代の中で、早くから指摘されていたのは、情報格差が生じないようにしてほしいということである。経費面とのバランスはあるが、県としては、今の情報化社会の中で立ち遅れる地域がないように、可能な限り対応する形で取り組んでいる。各論として、現実の姿はわからないが、ちょうど今、これから第3次高度情報化計画の3ヵ年計画を策定しているので、その中へ盛り込めるかどうか検討する。

[対応]

高速インターネット環境を提供する技術のひとつであるADSLサービスは、低コストかつ短期間で整備が可能であることから、県内においてもエリアが急速に拡大し、民間事業者による整備が進まない条件不利地域の一部においては、県でも整備にかかる費用の一部を助成するなど、未提供地域の解消に努めてきたところである。

しかし、コスト面や技術面の問題からADSLサービスの提供が困難な地域も存することから、これらの地域においては、無線技術の導入や光ファイバの敷設など、地域の状況に即した適切な手法により早期に高速インターネット環境が整備されるよう、通信事業者や市町と連携を図りながら検討を進めて参りたい。

巻き枯らし間伐の実施

「えひめ夢提案制度」に巻き枯らし間伐を提案している。是非、実現してほしい。

(知事)

知事メールで提言をいただき興味を持ち、担当者呼んで話をした。事務レベルの説明では、高知県でその制度を実施したが希望がどんどん減ってきている。もう一つは、この巻き枯らしをした場合に、結構虫が食う。要するに、そういった点の実証研究がまだないから、影響がどうなのか林業担当課として自信が持てないという話である。興味を持ったが林業担当課はかなり消極的な意見であった。研究を進めるように指示をしている。ある程度石橋を叩いて進めるというのは県庁の仕事である。立ち木葉枯らしによってかえってマイナス面が出るという危惧の面があるので、ちょっと進める状況でないということだけは理解いただきたい。

森林対策

林業政策に対してお礼を申し上げたい。久万は人工林だらけで手入れが必要であるが、木が売れたら何とかなるとの発言が多いので懸念している。木が売れないとどうしようもない。公共事業でも構わないから、木の手入れだけで生計が成り立つようにならないか考えている。山元の方はあまりお金が落ちてこない。木が売れて、家が建っても、木を切る人には余りメリットがないことを感じてほしい。木を使うのと木を切るのは別の施策が必要であることを理解してほしい。

(知事)

これからの森林対策は手探りのところが随分ある。問題はいくつがある。木材価格の低迷はもちろんあるが、県が力を入れているのは、強力な間伐をしないと山は大変なことになるだろうということである。間伐を実施しても、間伐材・間伐廃材の使い道がない。木を切って、手入れをして、循環しながら成り立つ社会を作ることが基本コンセプトである。このことは愛媛大学農学部長と以前からよく議論していることである。先生は林業振興の観点から、私は国土保全の観点から議論に入ったが、目指しているところはほぼ同じであると分かった。様々な施策を展開するには経費がかかる。経費をどうするのか、総合的にまとめて考えていけないといけない。木を使うと木を切るとの機能分担はあるが、県の森林政策は一体的に考え、森林そ生のために、可能な限りの現実的な施策を展開する。

森林環境税でも基金を積み立て、県民からのアイデアを募集している。山の奥地の手入れに使おうとしているが、様々ないい提案が出てくれば、森林環境税活用の道は開けると思うので、意見をいただきたい。